

看護系大学院における教育の基準策定と評価に関する調査研究

A. 回答者についてお尋ねします

I. 所属大学の設置形態に該当する番号に○をつけてください。その他に○をつけられた方は、()内に設置形態をご記入下さい。

1. 国立大学法人
2. 公立大学・公立大学法人
3. 私立大学
4. その他 ()

II. 所属大学が現在行っている看護学の教育について該当する番号に○をつけてください。

1. 大学院修士課程教育
2. 大学院博士課程(前期・後期)教育
3. 大学院教育課程を設置準備中

III. 貴研究科の修士課程・博士前期課程、博士後期課程で授与している学位について、該当する番号に○をつけてください。その他に○をつけられた方は、()内にその学位をご記入下さい。

修士課程・博士前期課程	博士後期課程
1. 修士(看護学)	1. 博士(看護学)
2. 修士(保健学)	2. 博士(保健学)
3. その他()	3. 博士(看護学)あるいは博士(保健学)
	4. その他()

IV. 回答者の職位について該当する番号1つに○をつけてください。その他に○をつけられた方は、()内に職位をご記入下さい。

1. 学長
2. 研究科長
3. 専攻長
4. 教授
5. 准教授
6. その他 ()

B. 博士後期課程修了生が修得すべき能力についてお尋ねします。

本プロジェクトでは、日本看護系大学協議会の会員校の研究科長等に対し、博士後期課程において修得すべき能力についてヒアリングを行い、看護学の大学院教育において修得すべき能力の本質を検討しました。その結果、博士後期課程修了生は、＜看護の学識者としての責任と役割を果たす＞必要があり、そのためには、＜グローバル＞かつ＜学際的＞な視点も持ち合わせて＜看護学を発展させる＞ことが求められます。また、＜看護学を発展させる＞ためには、＜知識や技術を創造＞し、＜発言力＞＜変革力＞＜教育力＞をもつことが能力として必要であり、これらの能力の基盤として＜看護哲学を追求する＞ことが求められます。

以下に示す修得すべき能力、およびその能力の内容に関する、表現ならびに内容に関して、「同意する」「同意しない」の該当する箇所にも○をご記入ください。「同意しない」場合は、その理由もご記載ください。

I. 看護哲学を追求する

看護哲学は、看護の学識者として責任と役割を果たす上での基盤となるものであり、それ故、自らの看護および人生経験を通して看護観や世界観を深めていくと同時に、普遍性を有する看護哲学として追求することが求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
I. 看護哲学を追求する			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 科学の歴史や哲学を看護（学）との関連で理解している			
2. 学問体系における看護学の位置づけを理解している			
3. 看護倫理について理解している			
4. 看護の学識者としての倫理観を備えている			

II. 知識や技術を創造する

看護の学識者としての責任と役割を遂行するためには、「新たな知識・技術の創造」は欠くことのできない能力として位置づけられる。新たな知識・技術の創造とは、社会・医療の課題を解決するために、看護学のみならず他の学問領域の知識をも活用して、現存の看護学の知識・技術をイノベーションし、新たな知識・技術を拡張・創造することであり、以下のことが求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
II. 知識や技術を創造する			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 専門領域を中心として創造的な優れた研究を実施する高い能力を有する			
2. 学問分野または学際的な研究チームを構成し、主導していける			
3. 他の科学分野の見解も含め看護の知識を多面的に検討できる			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
4. 専門分野で独立した学術的な水準の研究ができ、指導できる力を有する			
5. 新しいエビデンスを探究し、看護の知識を創造する力を有する			
6. 研究と実践に根づいた知識・技術の発展を牽引する			
7. 独創的な研究に挑戦することができる			
8. 看護分野の研究を独立して実施できる能力を有する			
9. 既存の知識を批判的に評価し、新たな知識を創り出していける			

Ⅲ. 発言力をもつ

発言力とは、看護の知識や技術を創造する過程において、その成果や生み出された新しい知見を研究論文として蓄積し、広く社会に発信・浸透させる能力である。この能力は、特定の看護学分野に示していくことにとどまらず、学際的かつグローバルに取り組むことが求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
Ⅲ. 発言力をもつ			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 人とディスカッションをし、新しいものをクリエイティブする			
2. 研究や実践における実績を成果として残す			
3. 新しいエビデンスを探究し、次世代に伝える			
4. 生み出した知識を広く社会に発信し、浸透させる			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
5. 学際的な専門集団に対し、論文投稿や発表を通して学問を伝えていける			
6. 国際的にパブリッシュする			

IV. 変革力をもつ

看護の学識者として専門職集団を導き、学際的な研究を通して看護実践を変革するリーダーとしての能力が求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
IV. 変革力をもつ			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 専門の学問分野を導くという役割と責任感を持ち、リーダーシップを発揮する			
2. 看護実践を改善するために、研究を通して実践現場と協働し、組織的な推進力を発揮する			
3. 看護学を価値づけるために他の専門職集団と連携し、またそれらに影響力を及ぼし、改革する			

V. 次世代を育てる教育力をもつ

博士課程修了生は、専門領域に関する知識や新たな知見を次世代に伝え、看護の実践を指導し、看護専門職を育成する教育に携わることが求められる。また、次世代への教育方法の改善を探究し続けることも求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
V. 次世代を育てる教育力をもつ			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 教育者として、新しい看護学の知見を次世代に伝える			
2. 専門領域に関連する領域の新しい知識に対応できる			
3. 教育への関心をもち、教育方法の改善を探究し続ける			
4. 看護の実践と指導ができる			
5. 次世代の看護職の教育にインフォーマルにもフォーマルにも携わっていける			
6. 専門職業人ならびに研究者としてメンターとなる			

VI. 看護学を発展させる

看護学の発展とは、今まで行ってきたことや、新しく作ったものを見直し、ケアの重要性を再確認するという積み重ねによって行われる。したがって、看護科学を発展させることや、専門とする学問領域を導いたり、牽引したりすることが求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
VI. 看護学を発展させる			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 理論構築や看護に必要な理論の方向性を考える			
2. 他の学問領域で明らかになったこと（理論）の成り立ちも踏まえ、検討できる			
3. 専門とする学問領域の研究を俯瞰し、学問領域を導く			
4. 科学的な力や学術的な知識をもち専門領域を牽引する			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
5. 学問を洗練させていくことができる			
6. 学問が独立するために、政策的な動きが必要であることを理解し行動できる			
7. その国に適した学問を主導していける			

VII. 学際的な視点をもって対応する

看護は学際的学問であるため、看護学の発展のためには、学際的な研究ができることや、学際的なリーダーになることも求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
VII. 学際的な視点をもって対応する			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 他領域を知り、看護の領域を明確にする			
2. 保健福祉全般をみて連携、協働できる			
3. 他分野との連携を強化して学際的な仕組みを作る			
4. 研究において異なる科学分野の見解も踏まえ、検討できる			
5. 学際的な研究チームを構成し、主導していける			
6. 課題解決のために、学際的な支援を求め、主体的に動ける			

VIII. グローバルに対応する

看護はグローバルコンセプトであることや、看護実践は文化、習慣の影響を受けるため、看護学の発展のためには、グローバルな視野・視点をもつことが求められる。

能力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
VIII. グローバルに対応する			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 日本の実践だけでなく、世界を見渡して教育を考えていける			
2. グローバルな視点で考えることができる			

C. 博士後期課程修了生が果たす責任と役割についてお尋ねします。

本プロジェクトでは、博士後期課程修了生は、＜看護の学識者としての責任と役割を果たす＞ことが必要であるとしています。

このことに、「同意する」か否かをお答えください。「同意する」「同意しない」の該当箇所に○を記入し、「同意しない」場合は、その理由をお書きください。

役割	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
看護の学識者としての責任と役割を果たす			

■その他、本研究に対するご質問・ご意見があれば、お書き下さい。

以上で終了です。
回答へのご協力、ありがとうございました。